

■宮崎正義 エコノミスト。石原莞爾のブレインとして国家統制経済をめざし、戦後の“日本株式会社”の礎となった。

みやざきまさよし

郡司千島探検1893＝ 金沢市材木町で、旧藩の下級士族で維新後米穀商に転じた家の末子三男に生まれる。

日清戦争始・1894＝ 1歳：

Bushidou・・1899＝ 6歳：材木町尋常小学校に入学。

教科書疑獄・1902＝ 9歳：

日比谷公園・1903＝10歳：卒業して、小将町高等小学校に入学。

成績優秀・品行方正・沈着冷静の評価を得て、

日露戦争終・1905＝12歳：卒業、県立金沢第二中学に入学。

韓国併合・・1910＝17歳：金沢二中を卒業。医学をめざすも、家計が苦しく、官費留学生の道を選択、

大逆事件判決1911＝18歳：一中卒業の嶋野三郎とともに、石川県の第一回の試験に合格し、ハルビンを経てモスクワに留学、

明治天皇没・1912＝19歳：

ロシア語研修を終えて、

第一次大戦始1914＝21歳：帰国直後、満鉄のロシア留学生に推薦され、モスクワに再留学。シャニヤフスキー大学で社会学を学ぶ。

21ヶ条要求・1915＝22歳：ペテルブルグ大学に移り、政治経済学を学ぶ。

この間、[東京日日新聞]の依頼で「露西亞通信」を送り続ける一方、休暇を利用してロシア全土を回る。

ロシア革命・1917＝24歳：く二月革命>で帝国の崩壊を体験、世界観上のヒントを得て卒業。満鉄に入社。運輸部営業課雇員から、

第一次大戦終1918＝25歳：正規の職員となると、

ベルサイユ条約・1919＝26歳：「時局ト東清鉄道」以降、職名で雑誌や小冊子に論稿を発表し、{調査時報}の解説記事も書いて行く。

大暴落・・・1920＝27歳：

原敬首相暗殺1921＝28歳：高岡市の医師の二女茂子と結婚、大連の東海林太郎の筋向いの家で新婚生活に入り、

水平社結成・1922＝29歳：長男正衛誕生。

関東大震災・1923＝30歳：*総務部調査課ロシア係主任となり、4カ月に渡ってソ連に出張、資料収集に努め、帰国後、文献の整理など

によって、満鉄調査部のロシア部門の充実に主導的役割を果たし、

治安維持法・1925＝32歳：これら資料をもとに、翌年にかけて{大阪毎日新聞}から「労働露国研究叢書」全6巻を刊行したのをはじめ、多数のロシア関係文献の翻訳・出版に尽力、5年間に「露西亞経済叢書」183冊を出しつつけるなどして、日本のロシア研究の前進に貢献する。この間、出張で東京に寄る度に参謀本部に立ち寄り、板垣征四郎中佐ら軍部との交友関係ができて行く。

共産党事件・1928＝35歳：自著「最新ソビエト連邦地図」を監修・出版。ソ連で発表された「第一次五ヵ年計画」に衝撃を受け、

世界恐慌・・1929＝36歳：長女玲子誕生。

海軍軍縮条約1930＝37歳：*参事に昇格後、関東軍の参謀石原莞爾と運命的な出会いをし、「世界最終戦争論」についての話を聞く。以後、石原の経済面でのブレインとなり、4年上の石原から“先生”と呼ばれるほどの存在になる。

満州事変・・1931＝38歳：石原らによる<満州事変>成功で、満鉄のなかの軍に積極的に関与しようとする側の実務面の中心となり、

五一五事件・1932＝39歳：満鉄に経済調査会を組織、委員長に十河信二を迎え、第一部主査として満州国建国計画に参画、「満州経済統制策」の執筆の中心となって、ソ連の五ヵ年計画を参考に、官僚主導の統制経済体制の確立をめざす。

国際連盟脱退1933＝40歳：関東軍の囑託をうけ、満州国の経済政策の調査・立案・実行に奔走後、満鉄改組とともに日満経済ブロックの樹立を求める副総裁八田の命で、東京在勤委員となって帰国。{ソ連研究資料}創刊に参画。

芥川直木賞始1935＝42歳：日満財政経済研究会を創設、実務面のリーダーとなり、以後大車輪の活動をして、

二二六事件・1936＝43歳：日満を一体とした生産力拡充計画・物資動員計画を立案、計画経済・統制経済体制の確立をめざす「帝国軍需工業拡充計画」「満州産業開発五ヵ年計画」を作成、

日中戦争始・1937＝44歳：*「重要産業五ヵ年計画要綱」に結実するが、<日中戦争>が始まり、戦時動員体制となって物動計画に重点が移るとともに、石原が左遷されて崩壊、表舞台から退場する(実施に参加した岸信介らにより、戦争遂行の手段として活用され、戦後“日本の経営”として花開くことになる)。

石原莞爾のとなえる東亜連盟運動に深くかわかり始め、「東亜連盟論」を出版。

大政翼賛会・1940＝47歳：上海・南京にわたり、板垣征四郎支那派遣軍総参謀長らと会談。

日米開戦・・1941＝48歳：*石原の完全な失脚とともに、日満財政経済研究会も解散となる。

近代の超克・1942＝49歳：上海に拠点を構え、日中間を往復、上海のほか、漢口・南京の東亜連盟論者たちと語り合う。

創価学会検挙1943＝50歳：辻政信らの依頼をうけ、対重慶和平工作・経済工作のブレインとなる。

敗戦・・・・1945＝52歳：

新憲法公布・1946＝53歳：上海より復員。戦犯を免れた十河信二の主宰する日本経済復興協会の常務理事に就任するが、

新憲法施行・1947＝54歳：

極東裁判決・1948＝55歳：領友泉山三六のスキャンダルによる失脚や板垣征四郎らA級戦犯の死刑を聞き、

ならんら意義ある活動をする事ができずに、

独立回復・・1951＝58歳：

自衛隊発足・1954＝61歳：肝臓癌のため東京で没した。

小林英夫「『日本株式会社』を創った男、